



## 不登校、いじめ、暴力行為ともに過去最高 小学校が急増 「(学校が)子どもがストレスなく学校に通え、前向きな気持ちで学べる 最低限の条件がみせていない」(子ども家庭審議会委員)

文科省が10/31に公表した調査結果で、2023(令和5)年度の、小中の不登校、いじめ、暴力行為すべてで過去最高の件数に上り、とりわけ小学校での急増傾向が顕著になっていることがわかりました。

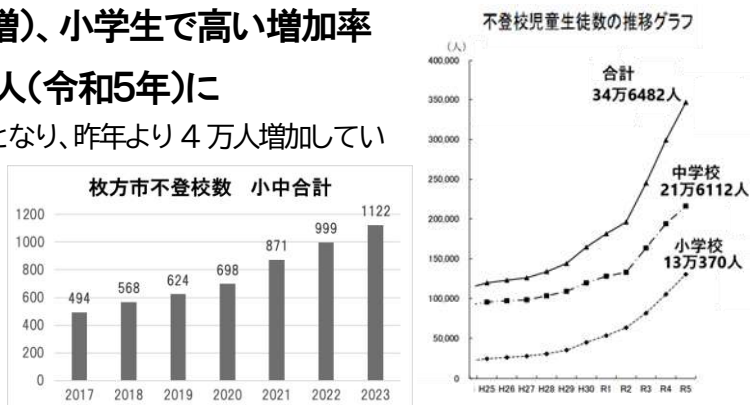
### 不登校 34 万人(昨年比 4 万人増)、小学生で高い増加率

#### 枚方市も小中の不登校1122人(令和5年)に

小中生の不登校は 34 万人で過去最高となり、昨年より 4 万人増加しています。コロナ禍から急増していますが、全体のうち中学生が半分以上を占めるものの、小学生の増加率は中学生の倍以上に上っています。

学年が上がるにつれて不登校の児童生徒数が多いことが一目瞭然です。

枚方市も2023(令和5)年度の不登校数は小中合わせて1122人になっています。



### いじめ認知件数 73 万件(昨年比 5 万件増)、重大事態 1306 件

いじめの認知件数も 73 万件で過去最高となっています。積極的に学校側がいじめと認知する対応の中で件数が増加している面もあるとされる一方で、心身に重大な被害が及ぶとされる重大事態が昨年より308 件増の 1306 件となっています。

#### 暴力行為 10 万件超える うち7万件が小学生

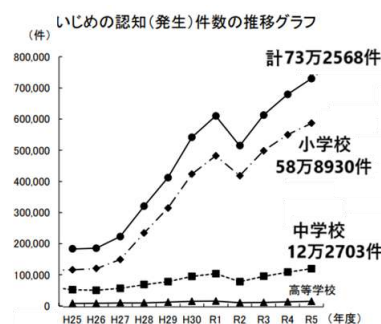
##### 子どもの「子どもの負担増」「心の叫び」の声も

暴力行為については、10万件を超えて過去最高となっており、そのうち小学生が7万件を越えます。

小学生は生徒間のケンカなども含まれる生徒間暴力が5万件ですが、「対教師暴力」も9千件以上に上っています。幼さで手が出てしまう、にとどまらない事態が広がっているといえます。

朝日新聞では白梅学園大の増田修二教授の声を紹介しています。

「コロナ禍の休校の影響で学習が不足し、考えをうまく言葉で伝えられない子がいたり、近年の指導内容の増加で子どもの負担が増し、学習内容が十分定着していなかったりしている」として、影響があった可能性を指摘する。



「小学生の暴力行為は『何とかしてほしい』という心の叫びだ。過剰な負担を減らし、ゆつくりと成長する環境を保障しなければ、これからも減らないだろう」

「ストレスなく学校に通え、前向きな気持ちで学べる最低限の条件がみせていない」

「そのことに先生たちが注力できるようにすべき」

昨年の子ども家庭審議会の基本政策部会で矢島委員が「こどもがストレスなく学校に通えて、前向きな気持ちで学ぶことができるという最低限の条件を満たせていない状況から、それを満たすために、先生たちがそこに注力できるようにしていく」必要性を強調していました。

多すぎる学習内容と高度で複雑な学習課題のために、子どもたちの学校生活がスタイルは依然と違うものの「学習、勉強」の比重が急速に高まり、学校生活で子どもにとって「楽しい」ことや「面白い」と思えることがなくなり、授業時間の増加と先生の多忙過密な働き方で、人間的な関わり合いの機会が減少していることは明らかです。

## 朝日記事「詰め込みすぎカリキュラム」記事に反響

### 5・6時間目「2年生持たない」、大切な放課後「いじめに気づき」

朝日新聞が10月に取り上げた、学習内容の詰め込みすぎ=カリキュラムオーバーロードについての記事。「小学校の時間割『毎日6コマは子に過剰』(10/1)」「学習指導要領『詰め込みすぎでは』(10/7)」に多方面からの反響が大きく、その内容を紹介しています。

- 「小6の息子が、帰ってくるとおやつを食べて寝てしまうことが多い。疲れていると思います」
  - 「2年生でも6時間の日があり、5・6時間目は図工生活科を入れるしかない。疲れ切って持たないです」
  - 「高学年は国語や算数などほかの教科も入れざるを得ないので、もっと悲惨な状況」
- など、子どもたちの疲れ切っている状況が保護者や教師経験者から良さられています。

### 上位学年の内容が次々下の学年へ 学習内容の高度化も拍車

朝日新聞の記事では自治体の学習支援に携わる人からの意見も紹介

「中1の最初の単元で助動詞が出てくる。理科、社会ではかつての高校レベルの深い内容になっている」と、上の学年からの学習内容が下の学年に前倒しされて、学習負担が過重になっていることが指摘されています。

「多くの内容を詰め込む前に、本来の教育の意味に立ち返り、余裕のある生活から、良好な人間形成が行われるべき」と指摘しています。

### 「子どもにとってカリキュラム・オーバーロードになっていないか」

#### 「少なく教え、豊かに学ぶ」内容精選を訴える (全校連合小学校長会会長)

教育新聞によると、全国連合小学校長会の小村会長は、校長会の議論の中でも出てきている、現在の学習指導要領が「子どもにとってカリキュラム・オーバーロードになっていないか」と問題を指摘し、「少なく教え、豊かに学ぶ」ためにも、学習指導要領の内容の精選が必要と強調しています。

次の10年間の教科書や教育内容の基本を示す学習指導要領の改訂に向けて、検討が始まろうとしています。

学校や子どもたちの困難な状況を変えていくためにも、保護者や市民にも広く学校の現状を広めて、一緒に声を上げていくことが重要です。

## 枚方市総合教育会議「働き方改革について」2023年12月 枚方市総合教育会議 その後市長肝いりの「働き方改革」は？ 月45時間の上限越え28%、精神疾患の病休、休職27人、 「教員の心理的な仕事の量・質、身体的な負担が高い状態」

昨年11月に、枚方市の伏見市長は、全庁一丸となって教員の働き方改革に取り組むと記者発表を行い、市長部局が中心となって総合教育会議を2回実施しています。総合教育会議は、教育委員会と市長が、重要な教育施策やなどについて「協議」する場です。

### 依然、枚方の「働き方に課題」「心理的な仕事の量・質の高い負担」

昨年12月の総合教育会議では枚方の学校現場の働き方の課題について主な3点を挙げています。

- ① 月45時間(時間外の在校時間)を超える教職員が28%いる 中学校中心に課題がある
- ② 精神疾患の病休、休職者数が小中合わせて27人で、精神疾患の病気休職割合が減少していない
- ③ ストレスチェックで枚方の「教員の心理的な仕事負担(量・質)、身体的な負担が高い結果」が

そのうえで、今後の取り組みについて2つの点を示しています。

- 「国の示す『学校・教師が担う業務に係る3分類』に基づき、市の権限と責任に応じた役割を果たしていく必要」
- 「業務量を変えずに担当する範囲を変えるということは、どこかに負担が移るだけとなるため、DXも含め、総量を減らしていく検討が必要となる」

### 「市教委が学校に課している業務の精選・削減」学校への指示や拘束の見直しこそ

総合教育会議の中では、市教委の「笑顔の学校」をはじめとした取り組みの広がりや成果が強調されていますが、会議の中でもあげられている、上記の3点の課題は学校現場の工夫や努力だけで解決は不可能です。

文科省も働き方改革を進める初めから、

「教育委員会が課している業務の内容を精査した上で、業務量の削減に関する数値目標(KPI)を決めるなど明確な業務改善目標を定め、業務改善の取組を促進」

することを求めています。(平成31年「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」通知)

今年8月の中教審の教員確保特別部会の緊急施策でも提言の第一に「学校・教師が担う業務に係る3分類」の徹底をあげ、

「教育委員会は、学校・家庭・地域に近い立場として、業務の優先順位を踏まえて思い切った廃止を打ち出す等、真に必要な取組に精選する」

ことを求めています。

枚方は授業スタンダードや研究指定、公開授業、研究授業をはじめ、本来学校で判断すべき教育活動についても多くの指示や拘束を学校に求めており、教員不足の中でもその取り組みが求められ、結果的にストレスチェックでも「心理的な仕事の量・質、身体的な負担が高い」結果につながっているといえます。

### 「教員不足」の中で、教育委員会・市長が何を取り組むかを具体的に示すべき

待ったなしの「働き方改革」「教員不足」の問題の中で、学校現場に工夫や努力を求めるばかりでなく、委員会や市長として、何を取り組むのかを具体的に示して、進めていくことが何より求められます。

総合教育会議も今年2月以降開かれておらず「全市一丸となって働き方改革」の具体像はいまだに明確になっていません。

## 11・27「全国一斉定時アクション」 枚方は29(金)に「一斉定時アクション集会」&分会長会議

11・27(水)に「一斉定時アクション」として、学校現場の働き方や教育の実情について、教職員の中に問題提起を広め、保護者や市民向けにもアピールするための取り組みが、全教から呼びかけられています。

枚方では、11/27(水)には、「一斉定時アクション」を職場を中心にアピールするとともに、29(金)に「一斉定時アクション集会」&分会長会議として、18:30から組合事務所2階で集会・会議を開催します。

職場での事前も含めたアピールとともに、集会&会議へのたくさんの方の参加を呼びかけます。

みんなで力を合わせて声を上げていきましょう。

### 子どもたちの健康と命、心のケアに重要な役割

## 養護教諭の大幅定数増を求める要求署名を広めましょう

日頃子どもたちの健康と命、心のケアに重要な役割を担っている養護教諭。ドラマ「放課後カルテ」でもその役割が取り上げられ、話題になっています。

一方で、文科省の基準では、2人が常勤する複数配置は、小学校が児童851人以上、中学校は生徒801人以上が条件。枚方ではほとんどの学校で単数配置となっています。

千葉、茨城など8府県と、横浜、浜松など7市が独自に養護教諭を追加で配置しています。

### 重要な役割の養護教諭の大幅定数増署名を広めましょう

不調を訴える子どもでいつもいっぱいになる保健室に、心のケアなどで保健室で時間をとることも多く、800人近い児童生徒を1人の養護教諭でみるのは極めて困難です。

中には1学期の多くを養護教諭が欠員のまま、学年の教員や近隣養護教諭の応援で対応せざるを得ない学校も出ていました。

養護教諭が安心して、ゆとりをもって業務に当たり、子どもたちに向き合える環境をつくるために、養護教諭の大幅定数増は不可欠です。

組合員の皆さんに署名を送付しています、職場の先生方の協力もいただいて、大阪府にも国にも強く求めていきましょう。

### 枚方母親大会講演会

## 「教育はいいけど誰のものなのか」

齊加尚代さん MBS 報道局ディレクター

映画「教育と愛国」監督

枚方市総合文化芸術センター別館

(旧メセナひらかた) 2階 メセナホール



「学校はどうしてこんなに息苦しくなったのか」

「授業で使う教科書の内容がどんな人たちの力によって左右されているのか」「一体教育はだれのものなのか」今の大阪の現状を踏まえて、語っていただけます。

どなたでも参加できます。当日参加歓迎！資料代300円 組合員の方は全額補助します。